



## 令和8年度白亜の会 論文対策講座



論文問題への対応

「どんな問題にも対応できる準備を」



青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会

副会長 齊藤 進

水煙は、塔の頂にある相輪上部の装飾で、火災に遭わないようにと造られた。二十四人の天人達が天衣を風に靡かせながら、笛を吹き花を散華して合唱する姿を彫刻した工芸的にもすぐれた作品である。

見えないところであっても手抜きをしない。

## 奈良薬師寺東塔



## 水煙



耐震偽装や食品偽装、手抜き工事など

## 陰徳を積む

放課後誰もいない教室で机、椅子を整理整頓する生徒。  
ごみを拾う生徒。

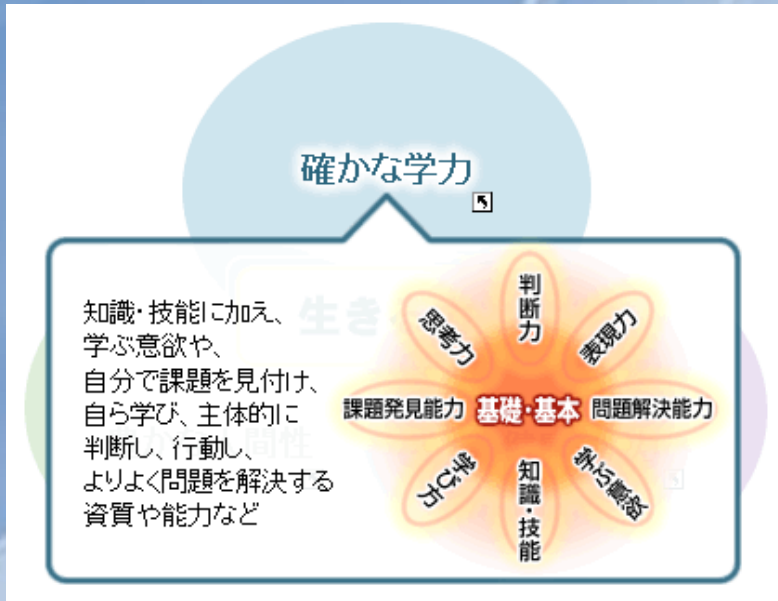
大掃除で棧の裏側を水拭きする生徒。

## 陰徳を積む

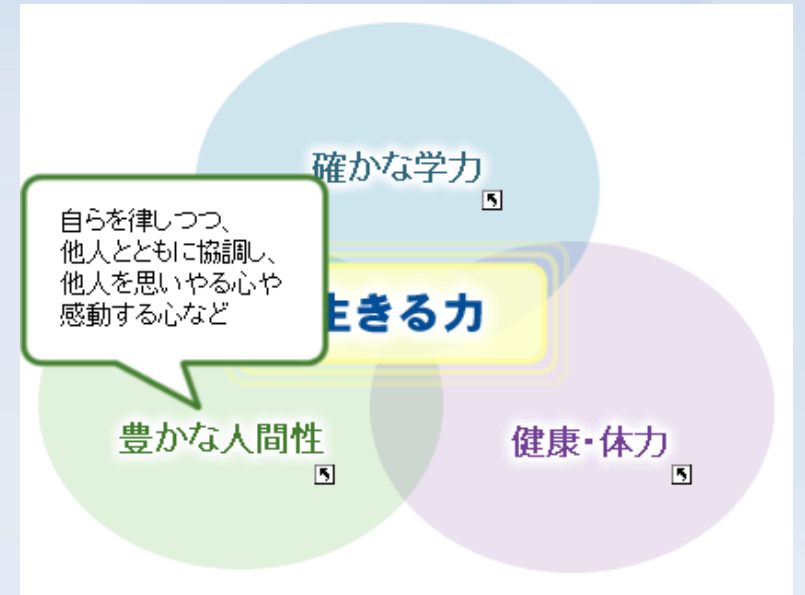
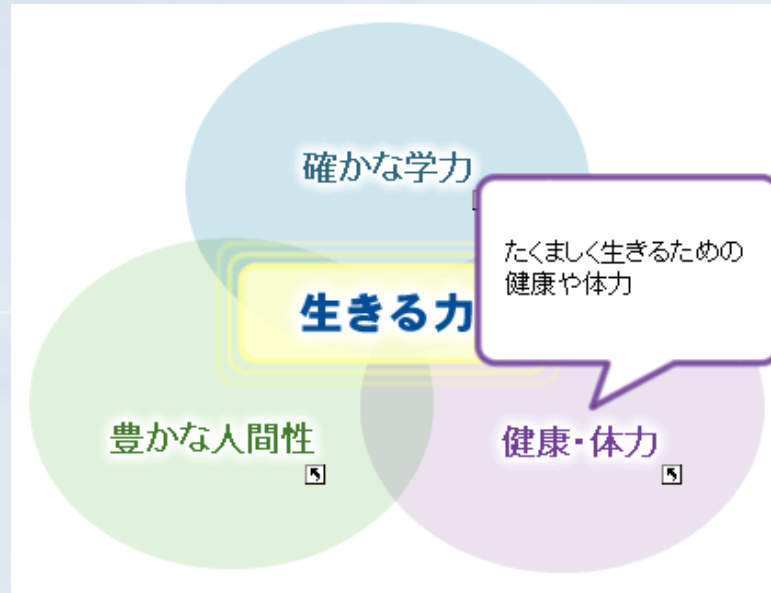


# これからの時代に求められる力とは？

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちには、**「生きる力」**、**「確かな学力」**を育むことが必要です。



**「確かな学力」**で検索



学校の役割とは

子供を幸せにすること

子供の幸せとは

愛され、ほめられ、人の役に立ち、必要とされること

自己肯定感

南千住検定



学校は楽しくなければならぬ

レスキュー部



各学校では児童・生徒が互いのよさを見付け、多様な考えを尊重し合うことができるよう教育の充実を図っています。

- (1) 児童・生徒が互いの良さを見付け、多様な考えを尊重し合うことについて、あなたの考えを、理由を明確にして述べなさい。
- (2) (1) の考えを踏まえ、あなたは教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して述べなさい。

学校の役割とは、生徒を幸せにすることである。幸せとは、生徒が思いやりの心を持ち、生きる力の成長を実感できることである。学校ではいじめや暴力事件の認知件数が年々増加しており、大きな教育課題となっている。その中で、お互いを認め合う態度の育成は不可欠である。これを踏まえて私は高等学校英語教師として、生徒が互いの良さを見付け、多様な考えを尊重し合う、誰一人取り残さない教育を実践していく。以下、具体策を述べる。

一つは、授業を通じてグループワークの機会を充実させる。英語の授業では「Accessible Japan」（社会的障害）の単元を取り扱う。まず、身近な駅や公共施設にどのような社会的障害が潜んでいるか、ストリートビューを使って生徒一人一人に調べさせる。その後、四人程度のグループを作り、持ち寄った情報の取捨選択を話し合い、各グループで五分間のプレゼンテーションを作り、発表させる。意見交換の際には、他の生徒の考えに対して、肯定的な評価やコメントを残すルールを設定する。そのようにして、相手の考えのよさについて積極的に見出す態度を養う。また他の生徒の発表を通じて多くの考えを知り、社会的障害についての理解を深めながら、お互いの意見を認め合えるように努める。こうした活動を通じて、生徒が互いのよさを見付け、多様な考えを尊重し合う教育を実現する。

二つは、学校行事の特別活動を通じて、生徒がお互いに認め合う環境づくりに取り組む。例えば合唱祭では、学級委員を中心として合唱の得意な生徒が苦手な生徒に対し、発声などのコツを教え合う場面を設ける。これによって、生徒が自身の特性を生かしながら行事に参加できる役割を認識させる。クラス全員が他の人を支えたり、他の人に支えられたりする経験を通じて、他の人のよさを見出し、多種多様な人の個性や考えを尊重できる態度を養う。また、教師はそのような働きかけを見つけた際に、それを「思いやり賞」として、クラス全体に共有する。そうした活動を肯定的に評価することで、クラス全体がお互いに助け合い、認め合うことを望ましいものとして受け入れる雰囲気づくりに取り組む。こうした活動を通じて、生徒が互いのよさを見付け、多様な考えを尊重し合う教育を実現する。

誰もが幸せを享受できる共生社会を実現するためには、お互いに支え合い、思い合うような心が不可欠である。私は常に「助け合い」を重視した教育実践を行う。粘り強い教育実践を通じて、生徒と共に向上心をもって成長していく覚悟である。

# 過去の論文問題のキーワード（東京、神奈川、横浜、川崎、埼玉、千葉など）と問題のとらえ方

真の学力、個に応じた指導、協働、ICTの活用、主体的・対話的で深い学び、実践的指導力、見方・考え方、探求する力、教師と児童・児童相互の信頼関係、学習意欲、自主的・自発的な学習・活動、言語活動、情報活用能力、人権意識、一人一人を大切に教育、多様性、魅力ある学校、豊かな教育環境、子供の可能性、社会全体での子供の育成、健康で明るく人間性豊かな教師、未来を創るこどもたち、未来を育てるわたしたち、いじめのメカニズム、オンライン授業、子どもの話に耳を傾ける教師、一人一人の良い点や可能性を伸ばす、自己肯定感、自尊感情、幅広い教養・専門的な知識・技能を備えた教師、変化に柔軟かつ創造的に対応できる力

○学力向上 ○心豊かに、たくましく生き抜いていく基礎を培う、の視点に立つ

背景： 学力向上 いじめ、不登校、自殺 特別支援教育等

確かな学力  
真の学力  
実践的指導力

学習指導（授業改善）で論述できるテーマが多い

- 1 知識・技能
- 2 思考力、判断力、表現力
- 3 課題発見・問題解決能力
- 4 学ぶ意欲、学び方

心豊かにたくましく生きていく基礎

主体的・対話的で深い学び 個別最適な学び 協働学習 ICTの活用  
総合的な学習（探求）の時間 各教科 道徳 特別活動等

地域・関係機関等学校を超えた連携

## 論文を書く最も重要なポイント1

- 1 **論文問題に正対していること。**きちんと問題点や問題点の背景を示しているか。
  - ・問題文が求めていることから逸脱してはいけません。
  - ・なぜそうした問題あるのかその背景を理解し論述する必要があります。

## 論文を書く最も重要なポイント2

どのような問題が出題されても、**授業、特別活動、外部の連携などの**着眼点をもって論述することができる。

真の学力、個に応じた指導、協働、ICTの活用、主体的・対話的で深い学び、実践的指導力、見方・考え方、探求する力、教師と児童・児童相互の信頼関係、学習意欲、自主的・自発的な学習・活動、言語活動、情報活用能力、人権意識、一人一人を大切に教育、多様性、魅力ある学校、豊かな教育環境、子供の可能性、社会全体での子供の育成、健康で明るく人間性豊かな教師、未来を創るこどもたち、未来を育てるわたしたち、いじめのメカニズム、オンライン授業、子どもに話を傾ける教師、一人一人の良い点や可能性を伸ばす、自己肯定感、自尊感情、幅広い教養・専門的な知識・技能を備えた教師、変化に柔軟かつ創造的に対応できる力

# 論文を書く最も重要なポイント 1

- 1 **論文問題に正対していること。** きちんと問題点や問題点の背景を示しているか。
  - 問題文が求めていることから逸脱してはいけません。
  - なぜそうした問題あるのかその背景を理解し論述する必要があります。

## 良い論文添削事例

特別支援の視点はすべての学級経営・学習指導において不可欠である。東京都の公立学校において、発達の多様性や様々な学習上の困難を抱える生徒が将来の「自立と社会参加」に向けて自己肯定感を高めるために、あなたは学級担任、あるいは教科担任としてどのように学習環境を整え、指導を行いますか。具体策を二つ挙げ、全体で1050字以内で述べよ。

発達の多様性や様々な学習上の困難を抱える生徒が将来の「自立と社会参加」に向けて自己肯定感を高めることは生きる力に繋がる。学校現場では、自殺やいじめ、不登校の件数は年々増加している。その背景には人間関係があり、多様性の理解にまだ追い付いていない。そのため、私は高等学校保健体育科の教員として誰一人取り残さず、生徒一人ひとりが思いやりを持ち、互いに尊重し合い、成功体験を通して自己肯定感を高め合うことのできる環境を目指す。以下具体策を述べる。

「誰一人取り残さない個別最適な指導」

まず、保健・体育の授業では「バスケットボール」を取り扱う。体育の授業では、運動の得意な生徒だけでなく、苦手意識を持つ生徒や発達の影響で困難を抱える生徒もいる。そのため、技術の習得度の評価だけでなく、目標を達成しようとする主体的な態度や互いに技術を高め合う姿勢など多面的に評価することが重要である。具体的には技能以外に課題を設定する。例えば、仲間への励ましの声やアドバイスし合うことである。アドバイスや励ましの声は誰でもできるわけではないので、一人一人の良さや思いやりにつながる。さらに、達成目標を個別に設定することで生徒一人ひとりが成功体験を得られるようにする。具体的にはバスケットボールのシュート10回中何回はいるかなどを実施する。このような指導で生徒が自己の成長を実感し、将来の「自立と社会参加」にも繋がる。以上のように個に応じた支援により、生徒が成功体験を通して自己肯定感を高める方策を実践する。

## 良い論文添削事例

### 「職場体験を通して」

次に二つ目ではキャリア教育の中で地域と連携し、職場体験を通して生徒に成長を促す。具体的には、「自立と社会参加」に向けて実際にお金に触れあったり、お客様との会話を図っていく。その後学んだことをノートに書き、こんなことを知ることができたといった新しい発見も見付けることができる。例えば、人と話すのが苦手な生徒が職場体験の飲食店で接客を通して、話すことが楽しいと感じる。こういった成功体験から**自己肯定感**を高めることができる。このような経験は「自立と社会参加」に向けて思いやりや主体性を身に付けることにもつながる。

このような体験を通して、**発達の多様性や様々な学習上の困難**を抱える生徒が将来の「自立と社会参加」に向けて**自己肯定感**を高められるように努める。そして、誰一人取り残さず、生徒一人ひとりが思いやりを持ち、互いに尊重し合い、成功体験を通して成長できるような環境を作っていく。

# 改善が必要な添削事例

各学校では、グローバルに活躍する人材を育成する教育が求められています。

このことについて、あなたの考えを述べた上で、その考えに立ち、教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して、26行(910字)を超え、30行(1,050字)以内で述べない。

私が目指す学級は全員が笑顔で「学校に行きたい」そう思えるようにすることだ。現代の社会ではグローバル化が進み、学校現場でも海外にルーツを持つ生徒が増加している。多様な考え方を尊重し、共に力を合わせて生活する共生社会の実現を目指していく。そのためにも、グローバルに活躍する人材を育成する教育は必要不可欠になる。私は中学校保健体育の教師として、誰一人取り残すことのない教育実践を行っていく。以下具体策を述べる。

問題に正対した説得力のある序論です。

## 1 しっぽ取りバスケット

運動が得意な生徒だけが行うのは体育の授業であってはならない。(体育の授業は運動が得意の生徒のためだけであってはならない)

そのために私はまず、6から7人のグループを作る。次に「しっぽ取りバスケット」を行う。ルールは、基本のルールは変えずに行う。変更する点は、ボールを持っている相手のしっぽを取ったらボールを自チームにすることが出来るということと、全員にパスを回さないと得点にならない、この2点。こうすることによって、しっぽやボールを追うだけでなく、相手のマークをすることや、得意な生徒のすきをつくことも出来る。こうすることによって、運動が苦手という生徒も他者と協力することが出来る。得意な生徒も、他者と協力して取り組むことが出来る。

# 改善が必要な添削事例

## 2 誰も暮らしやすい避難所マニュアル

現代の日本は外国人観光客が増加していることや、日本語を理解していない海外の方が住んでいるということがある。日本という国は地震が多い国である。いつどこで起こるかわからない。そのためにも私はまず、生徒を5から6人に分かれ「誰も暮らしやすい避難所マニュアル」をICT機器を使用し各班で作る。避難所の手順書の作成の際に、ICT機器や和英辞書を使い完成させる。イラストを使うことや、フォントの大きさなど誰が見てもわかりやすいものを考える。それを生徒全員で共有する。そこで自分たちの班に足りなかった内容を付け加える。こうすることによって、言語が伝わらない人に対してどのように伝えるのかを考えることが出来る。

私が目指す学級は、笑顔で「学校に行きたい」そう思えるようにすることだ。しかし、これは在籍しているときだけではいけない。卒業した後でも「学校に行って報告しに行きたい」そう思えるようにするのも教師の責務だ。時代の流れが早い現代の社会でグローバルに活躍することが出来る人材を育成することは必要不可欠だ。私は、教師として生徒ともに日々成長していく覚悟だ。

※本論の内容自体は具体的で良いです。ただ、問題文にある、グローバルに活躍する人材についての記述が弱いです。2つ目の本論の中で「和英辞書」があるので外国人向けすなわちグローバルな視点の取り組みと読めなくはないのですが。本論1の「しっぽ取りゲーム」の内容とグローバルに活躍する人材の育成との関連が読み取れませんので改善が必要です。

神奈川県では、児童や学校等の実態に応じ、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、**必要な資質・能力**を育成する主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいます。このことを踏まえ、あなたは、ICT活用の利点を生かした授業実践にどのように取り組みますか。ICTを活用する意義やねらいとともに、あなたの考えを600字以上825字以下で具体的に述べなさい。

**必要な資質・能力とは、確かな学力や体力、道徳性等を身に付けることであり、社会の大きな変動に伴い、保護者や国民の間に学校に対して、こうした資質・能力を確実に育成する質の高い教育を求める声が高まっている。**

PISA学力調査から、日本の生徒は思考力や判断力、表現力やICTの活用などに課題があることが明らかになった。私はICTを活用し情報活用能力を高めるとともに主体的・対話的で深い学びの授業を通して確かな学力を身に付けさせ必要な資質・能力を育むため以下の取組を行う。

○情報活用能力を高め、確かな学力を育む取組

児童は誰もが探求心をもっている。探求心は新たな知識を開花させ、学びに向かう力へ導く。学力の基盤となる情報活用能力の向上を確かな学力の育成に位置づけ主体的・対話的で深い学びの授業を展開していく。

「神奈川県の魅力再発見」をテーマとしてとして社会科の授業で行う。まず、5～6人のグループをつくり、それぞれ伝統工芸、農産物、交通、史跡文化財等について学校図書館、パソコン等を活用して調べさせる。調べ学習は探求心を引き出す。次に持ち寄った**情報の取捨選択**を話し合わせ、1グループ5分間のプレゼンテーション資料をつくり、**発表**させる。**情報の整理は思考力と判断力**を養い、**発表活動は表現力**を養う。生まれ育った地域を学習することで郷土愛を育むことも期待できる。

ICTを活用した個人やグループによる調べ学習、意見交換、発表活動は個別最適な学習や協働的な学習の実現で有効な指導法である。こうした学習を通して知識・技能だけではなく思考力、判断力、表現力、課題発見・問題解決能力等確かな学力を向上させていく。(704字)

各学校では児童・生徒が互いのよさを見付け、多様な考えを尊重し合うことができるよう教育の充実を図っています。

- (1) 児童・生徒が互いの良さを見付け、多様な考えを尊重し合うことについて、あなたの考えを、理由を明確にして述べなさい。
- (2) (1) の考えを踏まえ、あなたは教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して述べなさい。

学校の役割とは、生徒を幸せにすることである。幸せとは、生徒が思いやりの心を持ち、生きる力の成長を実感できることである。学校ではいじめや暴力事件の認知件数が年々増加しており、大きな教育課題となっている。その中で、お互いを認め合う態度の育成は不可欠である。これを踏まえて私は高等学校英語教師として、生徒が互いの良さを見付け、多様な考えを尊重し合う、誰一人取り残さない教育を実践していく。以下、具体策を述べる。

一つは、授業を通じてグループワークの機会を充実させる。英語の授業では「Accessible Japan」（社会的障害）の単元を取り扱う。まず、身近な駅や公共施設にどのような社会的障害が潜んでいるか、ストリートビューを使って生徒一人一人に調べさせる。その後、四人程度のグループを作り、持ち寄った情報の取捨選択を話し合い、各グループで五分間のプレゼンテーションを作り、発表させる。意見交換の際には、他の生徒の考えに対して、肯定的な評価やコメントを残すルールを設定する。そのようにして、相手の考えのよさについて積極的に見出す態度を養う。また他の生徒の発表を通じて多くの考えを知り、社会的障害についての理解を深めながら、お互いの意見を認め合えるように努める。こうした活動を通じて、生徒が互いのよさを見付け、多様な考えを尊重し合う教育を実現する。

二つは、学校行事の特別活動を通じて、生徒がお互いに認め合う環境づくりに取り組む。例えば合唱祭では、学級委員を中心として合唱の得意な生徒が苦手な生徒に対し、発声などのコツを教え合う場面を設ける。これによって、生徒が自身の特性を生かしながら行事に参加できる役割を認識させる。クラス全員が他の人を支えたり、他の人に支えられたりする経験を通じて、他の人のよさを見出し、多種多様な人の個性や考えを尊重できる態度を養う。また、教師はそのような働きかけを見つけた際に、それを「思いやり賞」として、クラス全体に共有する。そうした活動を肯定的に評価することで、クラス全体がお互いに助け合い、認め合うことを望ましいものとして受け入れる雰囲気づくりに取り組む。こうした活動を通じて、生徒が互いのよさを見付け、多様な考えを尊重し合う教育を実現する。

誰もが幸せを享受できる共生社会を実現するためには、お互いに支え合い、思い合うような心が不可欠である。私は常に「助け合い」を重視した教育実践を行う。粘り強い教育実践を通じて、生徒と共に向上心をもって成長していく覚悟である。

## 小学校主任選考試験論文

### <取組①> 情報活用能力を高め、学びに向かう力を育む取組

児童は誰もが探求心をもっている。探求心は新たな知識を開花させ、学びに向かう力へ導く。学力の基盤となる情報活用能力の向上を学びに向かう力の育成に位置づけ主体的・対話的で深い学びの授業を展開していく。授業内容等について主幹教諭と連携し校内研修会で企画・提案し、自ら授業を行う。テーマは「荒川区再発見」として社会科の授業で行う。まず、5～6人のグループをつくり、それぞれ伝統工芸、農産物、交通、史跡文化財等について学校図書館、パソコン等を活用して調べさせる。調べ学習は探求心を引き出す。次に持ち寄った情報の取捨選択を話し合わせ、1グループ5分間のプレゼンテーション資料をつくり、発表させる。情報の整理は思考力を養い、発表活動は表現力を養う。生まれ育った地域を学習することで郷土愛を育むことも期待できる。この授業研究を学びに向かう力の礎となるよう学校全体の授業実践に計画的・継続的に発展させていく機会とし、教員の資質能力向上に資する役割を担っていく。

## 論文を書く最も重要なポイント2

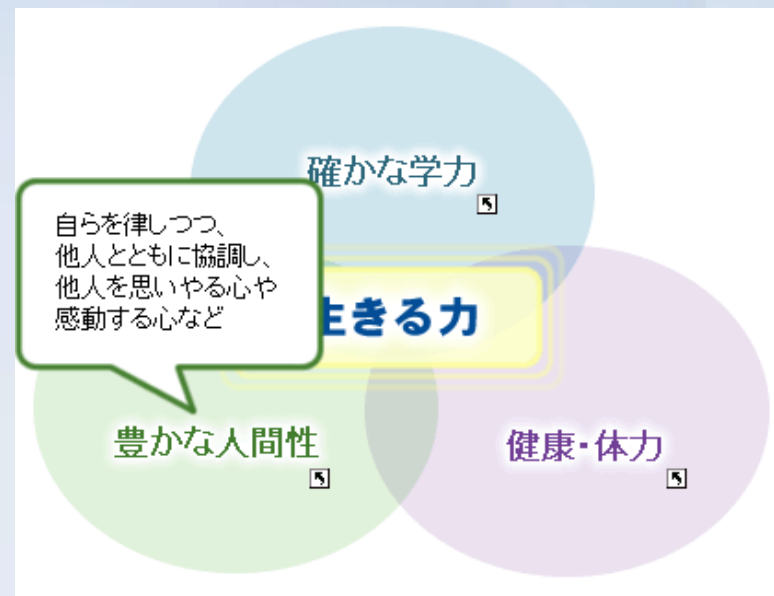
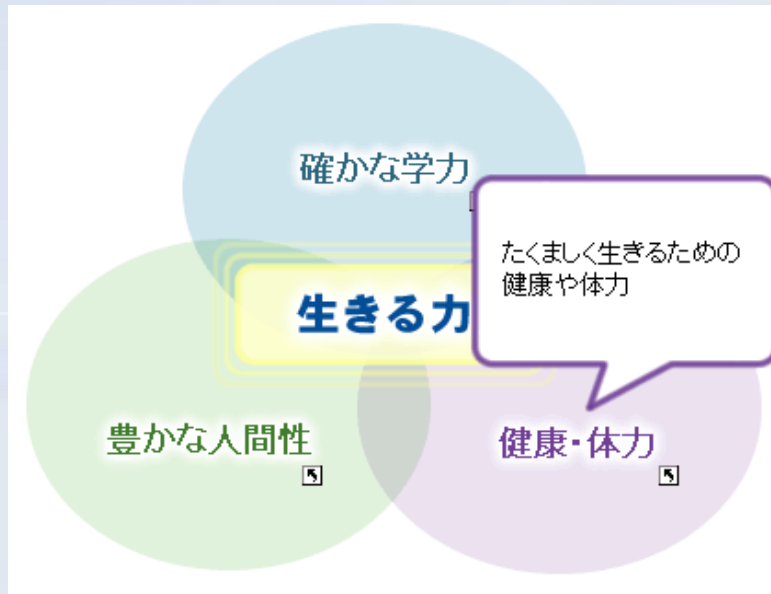
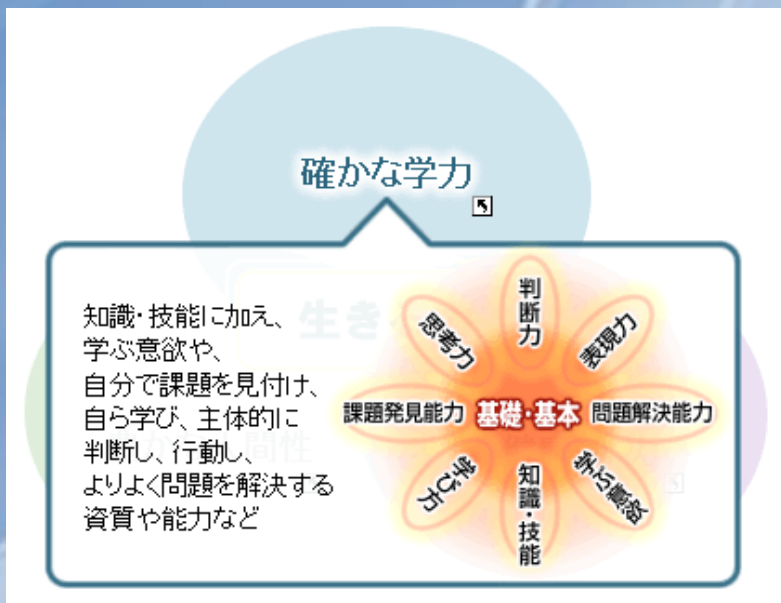
どのような問題が出題されても、**授業、特別活動（学校内）、外部（学校外）との連携**などの着眼点をもって論述することができる。

### 過去首都圏で出題された問題文のキーワード

真の学力、個に応じた指導、協働、ICTの活用、主体的・対話的で深い学び、実践的指導力、見方・考え方、探求する力、教師と児童・児童相互の信頼関係、学習意欲、自主的・自発的な学習・活動、言語活動、情報活用能力、人権意識、一人一人を大切に教育、多様性、魅力ある学校、豊かな教育環境、子供の可能性、社会全体での子供の育成、健康で明るく人間性豊かな教師、未来を創るこどもたち、未来を育てるわたしたち、いじめのメカニズム、オンライン授業、子ども話に耳を傾ける教師、一人一人の良い点や可能性を伸ばす、自己肯定感、自尊感情、幅広い教養・専門的な知識・技能を備えた教師、変化に柔軟かつ創造的に対応できる力、思いやり、共感 など。

# これからの時代に求められる力とは？

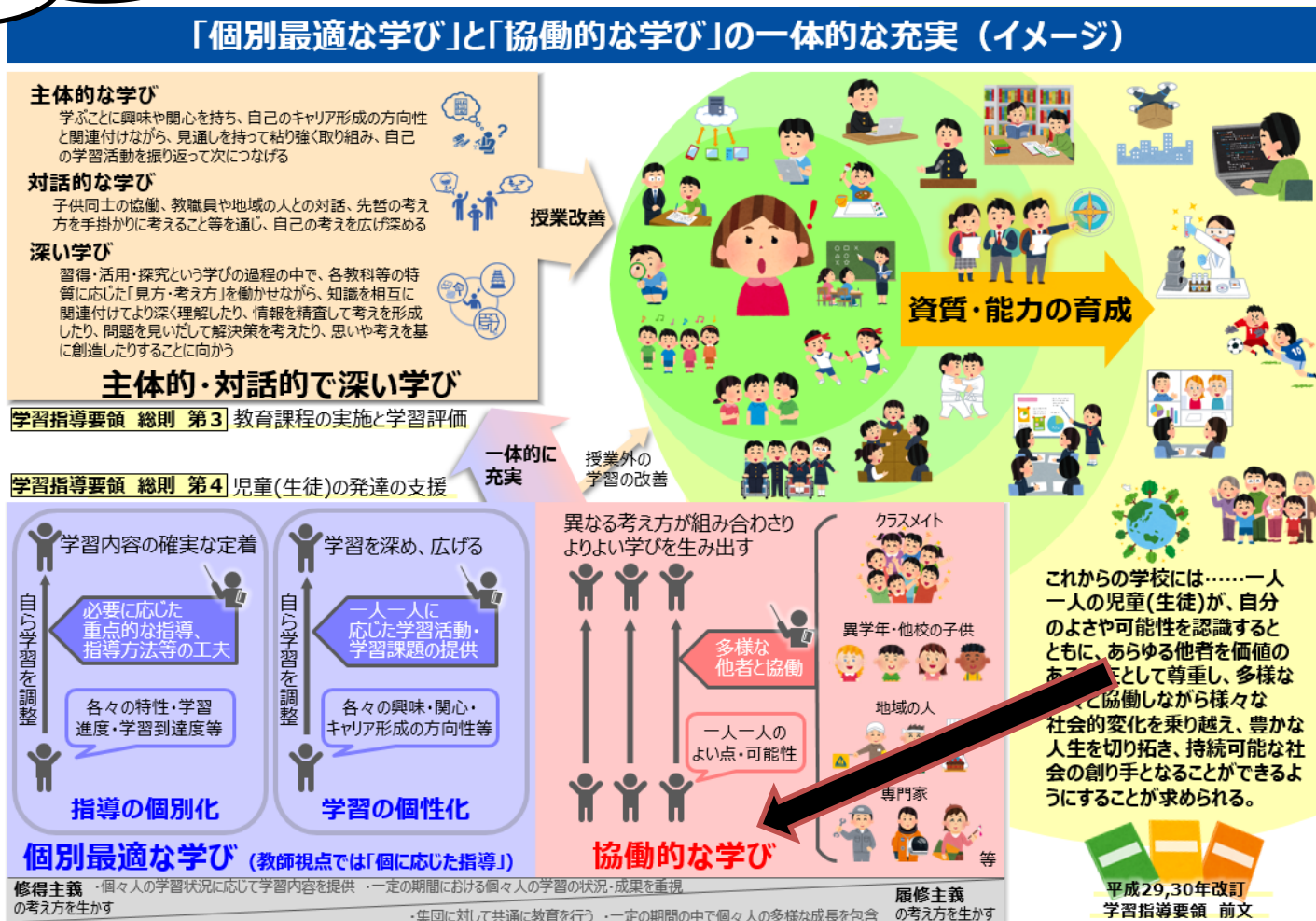
変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちには、**「生きる力」**、**「確かな学力」**を育むことが必要です。



# 文科省が示すこれからの教育の方向性（授業改善）

PISA学力調査結果が背景

## 令和の日本型学校教育



令和2年9月11日  
第13回特別部会

令和3年1月26日  
中央教育審議会

誰一人取り残さない

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

## 着眼点（何を書いたらよいか）を考えよう

○確かな学力、真の学力を育む。（実践的指導力のある教師、幅広い教養・専門的な知識・技能を備えた教師）

【着眼点は】

【柱（本論のテーマ）】

①

②

○生きる力を育む教育。

【着眼点は】

【柱（本論のテーマ）】

①

②

## 着眼点（何を書いたらよいか）を考えよう

### ○多様性を育む教育。

【着眼点は】

【柱（本論のテーマ）】

①

②

### ○自己肯定感を育む教育。

【着眼点は】

【柱（本論のテーマ）】

①

②

## 着眼点（何を書いたらよいか）を考えよう

○変化に柔軟かつ創造的に対応できる力の育成。

【着眼点は】

【柱（本論のテーマ）】

①

②

○持続可能な社会の創り手を育む教育。

【着眼点は】

【柱（本論のテーマ）】

①

②

## 着眼点（何を書いたらよいか）を考えよう

○未来を創るこどもたち育成。

【着眼点は】

【柱（本論のテーマ）】

①

②

○誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育。

【着眼点は】

【柱（本論のテーマ）】

①

②

## 予想問題

1 各学校では、誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育が求められています。

このことについて、あなたの考えを述べた上で、その考えに立ち、教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して、26行(910字)を超え、30行(1,050字)以内で述べない。

○この問題の背景としてどのようなことが考えられるか。そのことを踏まえあなたの考えを述べなさい。  
(主な内容を端的に)

【背景】

【あなたの考え】

○取り組む教育活動の内容（柱・テーマ）を二つ挙げなさい。

1

2

## 予想問題

2 各学校では、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自らの人生を舵取りし、持続可能な社会の創り手を育む教育が求められています。。

このことについて、あなたの考えを述べた上で、その考えに立ち、教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して、26行(910字)を超え、30行(1,050字)以内で述べない。

○この問題の背景としてどのようなことが考えられるか。そのことを踏まえあなたの考えを述べなさい。  
(主な内容を端的に)

【背景】

【あなたの考え】

○取り組む教育活動の内容（柱・テーマ）を二つ挙げなさい。

1

2